

企業ネットワーク分野におけるVoIPの動向に目を移そう。

従来、企業ユーザーは専用線やフレームリレー、ATMでプライベートネットワークを組む場合、各拠点をメッシュ状あるいはツリー構造で結ぶ必要があった。しかし、キャリア各社がリリースしているIP-VPNサービスを利用すれば、拠点ごとに1本の論理パスを設定するだけで済み、コスト削減を実現できる。

そして、IP-VPNは、単にデータ通信だけではなく、VoIPによる音声通信の統合にも活用できるものとして注目されている。PBX・ビジネスホン業界では、「VoIP市場の起爆剤はキャリアのIP-VPNサービス」と、かねてから大きな

オフネットで全国一律料金実現

IP-VPNにおけるVoIP対応サービスは大きく2つに分けられる。

IP-VPN内の拠点と公衆網を結ぶオフネット通信

IP-VPNで結ばれている拠点間でVoIPを利用できるオンネット通信

には、公衆網への発信(オフネット発信)と、公衆網からの着信(オフネット着信)がある。また、ユーザーが独自に構築していた仕組みをキャリア側で提供するものだ。

日本テレコムは昨年10月、IP-VPNサービス「SOLTERIA」の付加メニューとして、「VoIPオフネットサービス」の提供を開始。ネットワーク側に設置したゲートウエーを介してのオフネット発信を可能にした。

料金は、IP-VPNの利用料に加えて、オフネットサービスにかかる基本料金として月1000円、公衆網部分の通話料1分10円がかかる。ただし、通話料は距離別ではなく全国一律。一般の市外電話サービス利用との単純比較は難しいが、通話先が遠距離であるほどコストメリットが出ることになる。

また、オフネットサービスではキャリア側でゲートキーパー機能を提供する。そのため、ユーザー側はVoIPゲートウエー装置を設置するだけでよく、自前でVoIPシステムを導入するよりもコストを削減できる。

データ通信事業本部・データ通信企画部データサービス開発グループの石川浩治課長代理は、このサービスに着手した理由について、「IP-VPNでの音声統合について個別に相談を受ける中で、VPNの外には抜けられないのかという要望が高かったから」と説明する。

今のところは、国内の一般公衆網との接続だけだが、同社では今後、携帯電話・PHS網や国際電話網経由でのオフネットサービスも提供すべく検討を進めている。

PART 2

サービス拡充進む企業向けVoIP

IP-VPNの音声メニューを整備 公衆網の代替狙う新手法も登場

期待を抱いていた。実際、メーカー各社は、99年8月にNTTコムがサービス開始したのを皮切りに各社から次々と登場したIP-VPNサービスを、企業向けVoIP提案のツールとして活用し始めている。また、キャリア側もIP-VPNサービスの販売促進策として、機器メーカーと手を組み、VoIPを絡めたコスト削減提案に力を入れている。

こうしたアプローチにより、企業ユーザーの間では、IP-VPNを利用したデータ・音声統合ネットワークの構築がにわかに進んでいる。

ただし、これはあくまでユーザーが自前で設備を導入し、IP-VPNを音声通信でも利用するという形態である。それが、ここにきてキャリア側からIP-VPNの付加価値化としてVoIPをサポートしたサービスが登場し始めている。